

事故防止及び 事故発生時対応 マニュアル — 基礎編 —

み

ま

も

い

睡眠中

水遊び中

食事中等



はじめに

本市では、平成28年4月に認可外保育施設において、児童の死亡事故が発生しました。「こども・子育て支援会議 教育・保育施設等事故検証部会」より出された提言の中でも、事故対応マニュアルの整備が必要と示されています。

この「み・ま・も・り - 基礎編 -」には、

- ★ 事故予防のためには何が必要か
- ★ 具体的には何をすればいいのか
- ★ 事故が起こってしまったらどうすればいいのか 等

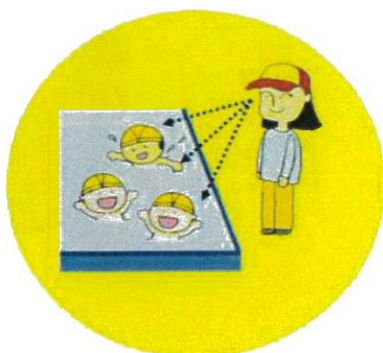
重大事故*が発生しやすい場面（睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等）や緊急時の対応をチェックポイントで示しています。

※ 重大事故とは・・・死亡事故、意識不明等の重篤な事故

一つひとつチェックすることで、基本的な安全確認ができるようになっていきます。安全で安心な保育を行い、大切な『こどもの命を守る』ために、ぜひご活用ください。

目次

- **み**んなで取り組む事故予防 ～こどもの命を守るために～ P 1～3
- **ま**ず確認！睡眠中も保育中 ～睡眠時安全チェックポイント～ P 4・5
- **も**ちろん配置！水遊びには監視役
～プール活動・水遊び安全チェックポイント～ P 6・7
- **り**スクを減らす！いつも観察 誤嚥予防
～誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント～ P 8・9
- 事故発生時の対応 P 10～13



みんなで取り組む事故予防

～こどもの命を守るために～

事故発生時、

どう対応するか 想像できますか？

いつもならできることが
とっさにできない 可能性があります



早期発見 が

こどもの命を助けることにつながります



こどもを 見守り 、異変に気づく

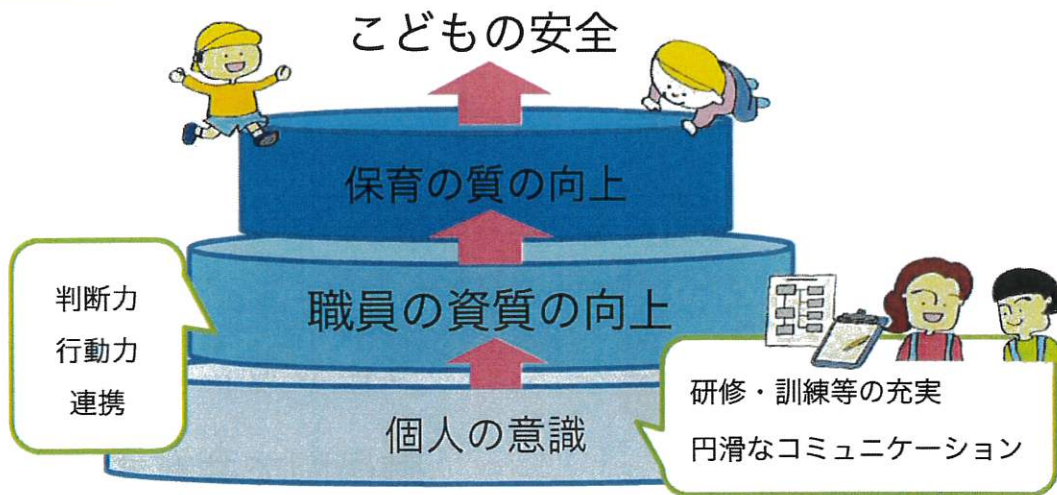


あなたの 気づき がこどもの 命を守ります

あの時こうしておけば・・・という思いをしないように

今できることを考えましょう

こどもが安心できる環境づくりには
職員一人一人の意識が大切です



「誰かが見ていると思っていた」ではなく
声を掛け合い、常にこどもの動きを把握しましょう



一方で、

命に関わる危険なリスクも潜んでいます

例えば...

危ない!

窒息の危険のある遊具をプール時に使用してしまっていた! (ヒヤリハット*)

もしかしたら、口に入れてのどに詰めてしまったかもしれない...

プールでスーパーボールを使って、「ヒヤッ」としました。

プールでスーパーボールを使わないよう、再度、皆に伝えましょう。

口に入らなくてよかった~

ではなく!

職員間で予防策を考える

※ ヒヤリハットとは、事故になる可能性があった「ヒヤリ」「ハッと」したできごと



「ヒヤッ」とした経験を職員間で共有することは事故予防につながります

チェックポイントを確認し、事故を防ぎましょう



重大事故が発生しやすい場面のチェックポイントをまとめました
それぞれの場面に合わせた危機管理を行い、事故を防ぎましょう

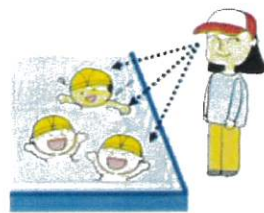
睡眠中

睡眠時安全チェック
ポイント (P 4・5)



水遊び中

プール活動・水遊び安全
チェックポイント (P 6・7)



食事中

誤嚥・誤飲・窒息事故防止
チェックポイント (P 8・9)



万が一、事故が起きてしまった場合



「事故発生時の対応 (P10~13)」に従い、迅速に対応する



そのためには事前に**シミュレーション** (状況に応じた役割分担の訓練)
を行っておくことが必要です！

職員間で事故予防や発生時の対応
について共通認識を持ちましょう





まず確認！ 睡眠中も保育中

睡眠時安全チェックポイント



睡眠時の安全確保

睡眠中が最も突然死等の危険性が高い！

『自園でも起こりうるかも...』

『子どもの安全を最優先とする』意識の徹底



- ・睡眠中も保育である
- ・睡眠中のリスクの共有
うつぶせ寝・窒息・預かり初期のリスク 等
- ・見守り(観察・記録)に専念できる体制づくり
- ・緊急体制の整備
 - ➡ 心肺蘇生法・AED の操作研修の実施
 - ➡ シミュレーション研修(状況に応じた役割分担の訓練)の実施



チェックポイント



1 入園時の確認

- 入園児の生育歴等を把握する
- 配慮事項等がある場合、全職員で情報を共有する
- SDS 対策普及啓発用ポスター(厚生労働省)を掲示したり、リーフレットを配付する
- こどもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する(特に預かり初期は要注意)
- こどもの状況に応じた慣らし保育の必要性を保護者に説明し、理解を得る



チェックポイント



2 睡眠中の観察

- 特に、預かり初期は注意深い見守りを！ —
 - 0・1 歳児はうつぶせ寝を見つけたら、仰向けにする
 - 0 歳児は5分毎
1 歳児以上は10分毎] に観察する
- | 項目 |
|---------------------|
| ・名前の確認・顔色・唇の色 |
| ・呼吸状態の有無(呼吸音・胸の動き) |
| ・呼吸の様子(咳・ゼーゼー・鼻づまり) |
| ・熱感(体に触れて体温・発汗等) |
| ・体位 |
- その都度、睡眠時観察表に記録する





3

睡眠環境等の確認

カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさの確保のため開けておく



- 敷布団は固めのものか
- 掛け布団は軽いものか
- コットの上のマット等は固定されているか
- 枕は使用していないか
- 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
- 室内の照明は顔色等が観察できる明るさか

- 適宜換気を行っているか

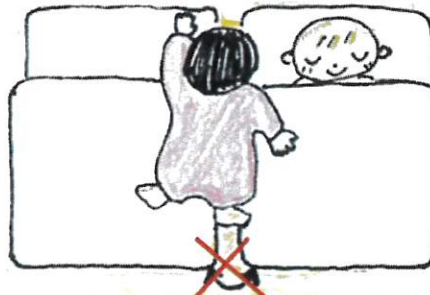


- 体調等いつもと違う様子はないか
- 水分補給はできているか
- 口の中に何も入っていないか

- よだれかけは、はずしているか
- 周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「タオル」「コード等のヒモ状のもの」はないか
- おもちゃ等を持っていないか
- すき間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけている、もしくはすき間なくつめているか



動いて上にのることも



室温湿度計

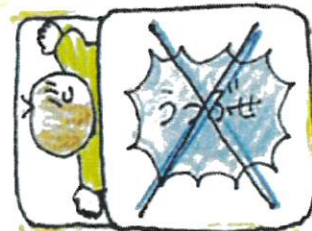
- 部屋は暖めすぎではないか

- 寝かしつける時から仰向けにしているか

〈温度・湿度の目安〉

	温度	湿度
冬	20~23℃	約60%
夏	26~28℃	約60%

- ・室温湿度計はこどもが生活する高さに設置する（安全に留意しながら）
- ・冷房は床面の温度が2~3℃低い場合があるので、睡眠時は留意する



睡眠中は床暖房やホットカーペットを使用しない（暖めすぎの防止）



もちろん配置！ 水遊びには監視役

プール活動・水遊び安全チェックポイント



安全対策の確立



監視体制の確立

監視者が監視に専念できる体制作り



緊急体制の確保

心肺蘇生法・AED 操作研修及びシミュレーション研修の実施(状況に応じた役割分担の訓練)



乳幼児の特性とリスク

10 cmの深さでも溺れることがある



★安全を最優先に考え、十分な監視体制が確保できない場合は、プール活動の中止も選択肢とする

こどもの安全が最優先

監視者とは

監視体制の空白が生じないよう専ら監視を行う者とプール指導等を行う者を分けて配置する



監視者はプールサイドの子どもたちと遊んだり、プール指導者の補助をしたりせず、監視に専念する者

「監視者」の目印等を決める



役割

- プール全域をくまなく監視する
- プールに参加している子どもの人数を把握し、確認を適宜行う
- 動かない子どもや不自然な動きをしている子どもを見つける ← 静かに溺れることが多い
- 特定の子どもに視線を固定せず、定期的に視線を動かしながら全体を監視する
異常かどうかの見極めは、顔(特に目)を見る
- 持ち場を離れる時は、代替りの職員を配置する

チェックポイント



1 事前管理

- 慢性疾患等の配慮を必要とする子どもへの対応の確認
- 当日プール活動ができない子どもへの対応の確認
- 排泄が自立していない子どもへの対応の確認
- プールに入る人数の確認(人数を考慮しているか)

チェックポイント



2 活動実施の判断

- プール活動ができる環境か
 - ・雨天、強風、雷が鳴ったとき
 - ・光化学スモッグ警報発令のとき
 - ・PM 2.5 の注意喚起のとき
 - ・暑さ(熱中症)指数が高いとき
 - ・土、砂等による汚染が著しいとき

一つでも当てはまる場合は中止とする

チェックポイント

3

環境の整備

- 日よけ対策は行っているか
- プールの破損・亀裂はないか
- 石やガラス等、危険物はないか
- プールサイドは滑りやすくなっていないか
- 排水溝の安全点検は行ったか
- プールの清掃と整理は行ったか
- プライバシーへの配慮は行っているか
- 監視場所に死角はないか
- 心肺蘇生法・AED 操作や緊急時対応のフローチャートをプール付近で確認できるか (P10～13 参照)
- 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等) の確認は行ったか

チェックポイント

4

活動前の確認

- プール環境は適切か
(気温 26℃以上・水温 27℃以上)
- 水深は年齢に応じて調整できているか
- 適正な塩素濃度になっているか
(塩素濃度 0.4 mg/L～1.0 mg/L)
- こどもへの安全指導を行ったか
- 薬の預かりはないか
- 体温はどうか
- 顔色・機嫌はどうか
- 目やに・充血・鼻水・発疹等はないか
- 傷はないか (あれば状態はどうか)
- 便の状態はどうか
- 水分補給は適切に行ったか
- 帽子を着用しているか
- 準備体操を行ったか
- シャワーで適切に体を洗ったか
- おしりに排泄物が残っていないか
- 窒息の危険があるおもちゃはないか
- 職員の健康状態はどうか

チェックポイント

5

準備物の用意

- 塩素剤
(使用上の注意を必ず読んでおく)
- 残留塩素測定器・試験紙
- 気温計
- 水温計
- プール管理日誌
- 時計
- 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等)
- 拡声器・携帯電話 (緊急時に応援を呼ぶ)

こどもの手の届かない位置に保管

チェックポイント

6

活動中の確認

- こどもの人数を把握できているか
- 人数を監視者に伝えたか
- 適正な塩素濃度を維持しているか
(10～20 分毎に測定する)
- 健康状態 (顔色や身体の様子) はどうか
- 監視者はプール全域をくまなく監視しているか

チェックポイント

7

活動後の確認

- ケガはないか
- 健康状態はどうか
- シャワーで体を洗ったか
- うがいをしたか
- 水分補給をしたか
- 保育室の室温は適切か
- 速やかにプールの水を排水し、鍵を閉め (カバーをかけ) たか
- プール管理日誌に記録をしたか




リスクを減らす！ いつも観察 誤嚥予防

誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント


こどもの特性

- ・ 歯の発育
- ・ 摂食機能が未発達
- ・ こどもは思いもよらない行動を起こす




食べ物や玩具の性質

大きさ・形状
食感（表面の滑らかさ、弾力性、硬さ、噛み切りにくさ）



さまざまな要因が
誤嚥・誤飲
窒息事故に
つながる！

職員の窒息危険性の認識不足




こどもの状況を日常的に意識する 

こどもの様子を把握する


【健康状態】


- ・ 健康観察
- ・ 当日のこどもの健康状況をていねいに保護者から聞き取る



【行動】

一人一人の様子に目を配る



『幼児だから口に入れない』といった先入観ではなく、こどもは思いもよらない行動を起こす特性を考える 

職員間で情報共有し、事故を防ぐ

食事



チェックポイント



1

- 環境
- 食器・食具は適切か
 - 机・椅子の高さは適切か
 - 慌てて配膳していないか（誤配膳防止を含む）

チェックポイント



2

食品の形態

- 大きさ・形状・温度・量・粘着度等は適切か
- 個々に応じたひと口の量・大きさに調整しているか

チェックポイント



3

食事時間

- ゆったりとした保育の流れとなるよう工夫しているか
- 食事前に水分を摂ったか
- 詰め込まないよう指導できているか
- 食べるスピードが速すぎないか
- よく噛むよう指導できているか
- 「笑う」「泣く」が起きた時には詰まらないかどうかを観察できているか
- 眠くなっているときに無理に口の中に入れていないか
- 食べ終わりに口の中が空になっていることを確認したか

食事以外 保育時間中

チェックポイント



- 誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけていないか（家庭や園外から、おもちゃ、小石や木の実等の自然物、菓子・雑貨、フード付き上着等を持参していないか）



- 発達に応じたおもちゃを選択しているか（素材や大きさなど）

- ボタンや髪留め、飾りやアクセサリ、ビニール袋等が身近にないか



- こどもの手の届く場所に危険なものがないか（口に入るものなど）

- 薬品、洗剤、肥料の管理が徹底できているか



- 菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか

- 異年齢と一緒に遊ぶ場合は、状況に応じたおもちゃを選択しているか、または、コーナーに分かれて遊んでいるか

確認しましょう！

チャイルドマウス



この円形・楕円形の中に入るものはこどもの口に入ります

誤飲物を縦、横、斜めにして楕円形に入りそうなものは、こどもが飲み込んだり、窒息の危険があります

※乳児クラスについては、身の回りに口に入りそうなものはないかチェックしてみましょう

事故発生時の対応（救命処置が必要な場合）



初期対応

応急処置ができるよう場所を空け、
他の園児をその場から離す

他児の保育

(担当：)

チェックポイント

1 反応の確認

反応はあるか

反応がない

反応があるが、いつもの反応でない

チェックポイント

3 呼吸の確認

呼吸はしているか

呼吸がない

呼吸がある

心肺蘇生を行う
AED 装着

様子観察



※こどもの側から離れない！

呼吸をしているか等、こどもから
目を離さず確認

心肺蘇生・応急処置

(担当：)

P12 を見る！

こどもの観察・記録

(担当：)

注意！

溺れかけたり、窒息しかけた場合は、元気そうに見えても、できるだけ早期に受診する

チェックポイント

2

救急車の手配

P13 を見る！



119 番通報（担当： ）

チェックポイント

4

連絡

- 保護者へ連絡
- 浦安市保育幼稚園課
047-351-1111



連絡係

（担当： ）

AED 設置場所

（事務所内カウンター）

救命処置

発見者！直ちに！その場で！対応開始！

反応を見る！

肩や背中をたたきながら大声で呼びかけても
何らかの応答やしぐさがなければ「反応なし」とみなす



周りに知らせる！119番通報！※笛等で応援要請！人を集める！

呼吸を見る！

気道の確保

呼吸なし



呼吸をしていない時、即座にその場で人工呼吸開始！

反応がなく、呼吸がないか、**死戦期呼吸**（「口をパクパク」「あえぐような」呼吸）が認められる場合は**心停止と判断**、心肺蘇生（CPR）の適応と判断し、ただちに人工呼吸・胸骨圧迫を開始する

※睡眠中は突然死が考えられるため、すばやく見極め緊急度を判断！口腔内の確認！

心肺蘇生（CPR）

（胸骨圧迫30回：2回人工呼吸）
強く・早く・絶え間なく！中断しないこと！

呼吸が重要！

胸骨圧迫！

1歳以上



- 片手の付け根で
- 乳首を結ぶ線の真ん中
- 胸の厚さ約1/3くぼむまで
- 少なくとも100~120回/分

1歳以上は口対口人工呼吸（鼻はつまむ）

1歳未満



- 中指・薬指の2本で
- 乳頭を結ぶ線の少し下
- 胸の厚さ約1/3くぼむまで
- 少なくとも100~120回/分

1歳未満は口対口鼻人工呼吸（口鼻一緒に）、
胸が軽く膨らむ程度の量で行う

AED 装着

心肺蘇生は救急隊に引き継ぐまで続ける！

電極パッド装着

AED のメッセージに従う

必要あり

「必要」と音声 flowed たら音声に従い電気ショックボタンを押す
その後、心肺蘇生を再開する

必要なし

「不要」と音声 flowed たら、
ただちに、心肺蘇生を再開する

電極パッドを貼り付けるときもできるだけ胸骨圧迫を継続する

※職員はAEDがどこに設置されているのかを把握しておく

《119 番通報》

【例】

種類・・・「救急です。」

場所・・・「住所は浦安市弁天 1-1-28 弁天保育園です。ワイズマートの裏の中村観賞魚の通りです。」

通報者・・・「私は弁天保育園の〇〇です。
電話番号は 047-316-8841 です。」

被害状況・・・「〇歳児〇名が〇〇な状態です。」

※子どもの状態を聞かれたら簡潔に伝える。

《参 考》

突然の病気やけがで救急車を呼んだ方がいいか、病院に行った方がいいか等、判断に困ったときは

『千葉県安心電話相談』に電話を！

電話 #7119 (携帯電話・PHS・プッシュ回線)

または 03-6810-1636 (すべての電話)